

立川市の現状

- ①人口動向・高齢化率
- ②公共交通網
- ③交通分担率
- ④鉄道
- ⑤路線バス
- ⑥くるりんバス
- ⑦タクシー
- ⑧その他の移動手段

①人口動向・高齢化率

- ・市の総人口は令和10年（2028年）をピークに、その後は減少に転じ、令和27年（2045年）には178,211人になると見込まれる。
- ・高齢化率については、現在、おおよそ4人に1人となっている65歳以上の人口は令和27年（2045年）におおよそ3人に1人の割合となることが見込まれる。
- ・0歳～14歳および15歳から64歳の人口割合は緩やかに減少する見込み。

人口と高齢化率の見通し



	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和12年	令和17年	令和22年	令和27年
0歳～14歳	22,154人	22,114人	21,794人	21,794人	21,481人	20,971人	20,719人	20,042人	19,542人	19,877人	19,285人
15歳～64歳	116,768人	116,957人	117,596人	117,596人	118,062人	118,799人	119,011人	117,989人	113,571人	106,001人	100,637人
65歳以上	45,168人	45,066人	45,734人	45,734人	45,940人	46,329人	46,553人	48,159人	51,382人	55,881人	58,289人
合計	183,822人	184,090人	184,577人	185,124人	185,483人	186,099人	186,283人	186,190人	184,495人	181,759人	178,211人

出典：立川市第5次長期総合計画策定のための将来人口推計調査

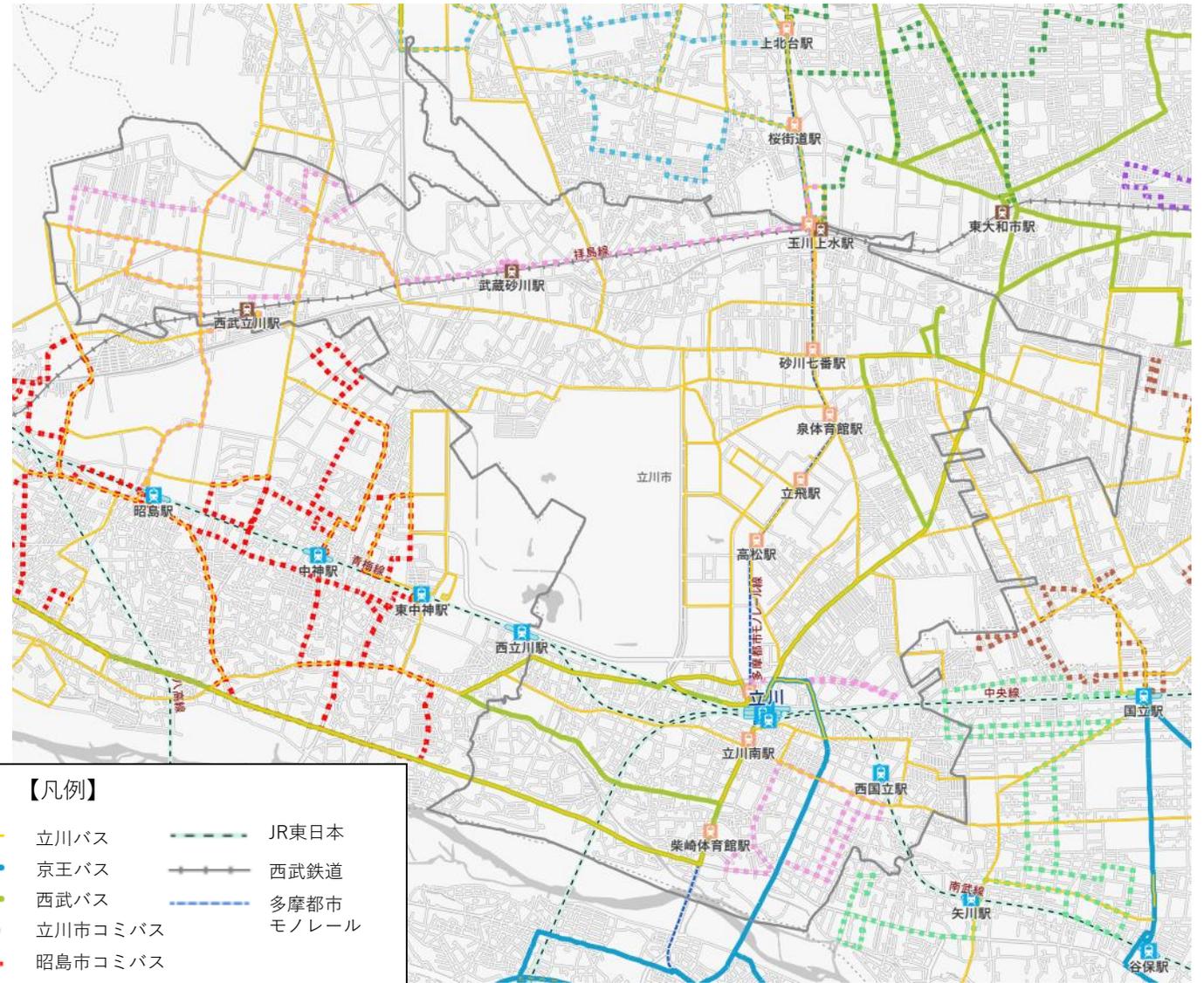
②公共交通網

【鉄道】

東西方向はJR線、西武拝島線、南北方向は多摩都市モノレールが乗り入れており、市内3路線14駅が整備されている。

【バス】

- ・立川駅を起終点とする路線が大半であり、立川駅北側の南北の路線が特に多い。
- ・西砂町・一番町地域は昭島駅への路線バスが多く、栄町・若葉町地区は国立駅からの路線バスも運行している。
- ・コミュニティバス「くるりんバス」が西砂町・一番町地域、錦町地域を運行している。



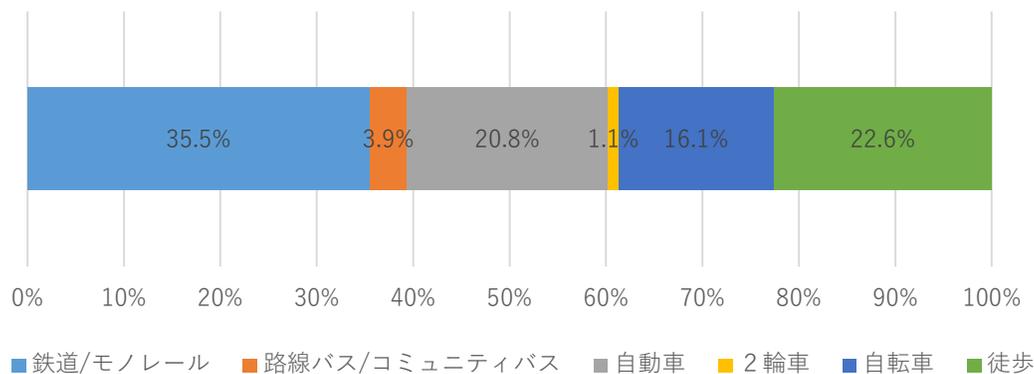
【凡例】			
— (Yellow)	立川バス	— (Black)	JR東日本
— (Blue)	京王バス	— (Grey)	西武鉄道
— (Green)	西武バス	— (Blue dashed)	多摩都市モノレール
— (Pink dotted)	立川市コミバス		
— (Red dotted)	昭島市コミバス		
— (Purple dotted)	小平市コミバス		
— (Orange dotted)	国分寺市コミバス		
— (Cyan dotted)	武蔵村山市コミバス		
— (Light Green dotted)	国立市コミバス		
— (Dark Green dotted)	東大和市コミバス		

参考：国土交通省・国土数値情報（鉄道：令和5年度・バス：令和4年度）

③交通分担率

- 代表交通手段別構成比で見ると、市内の移動の約39%を公共交通が担っている。

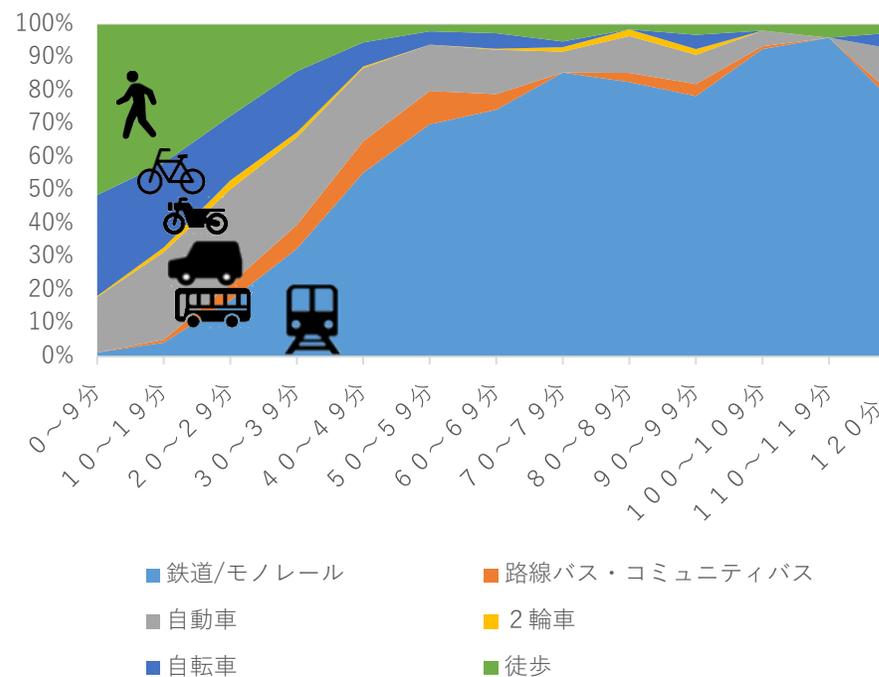
代表交通手段構成比（発生量）



出典：東京都パーソントリップ調査（H30年度）

- 所要時間別の代表交通手段分担率で見ると、概ね短時間の移動は徒歩が多い。
- 長時間（40分以上）の移動は鉄道が主な交通手段となっている。

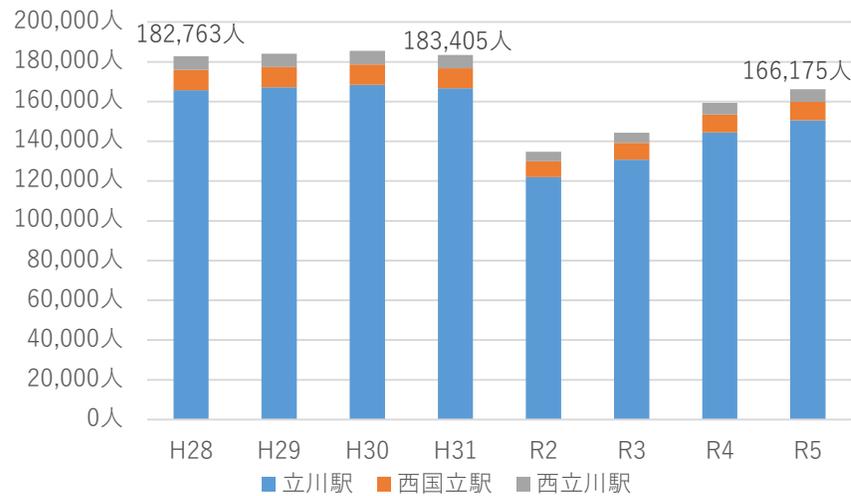
【所要時間別】代表交通手段分担率



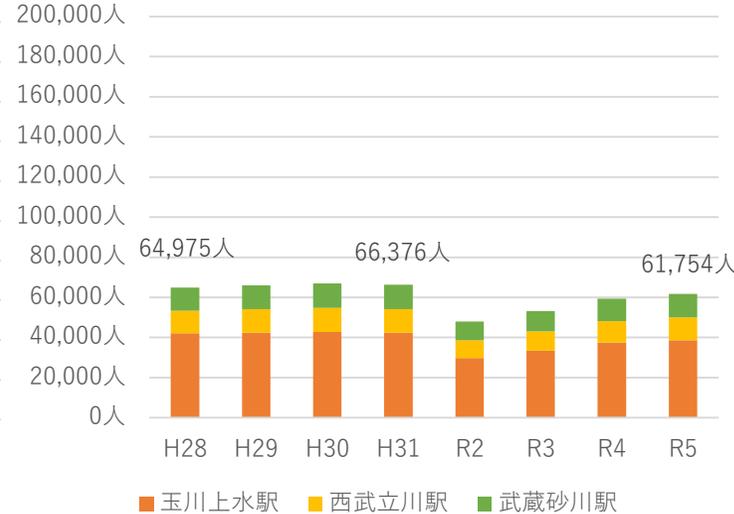
④ 鉄道・モノレール

- ・乗降客数（乗車数）※の推移は、平成31（2019）年度までは増加傾向。
- ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受け、令和2（2020）年度に大きく減少。
- ・令和3年度以降は回復傾向にあるが、令和5年度においても平成31（2019）年度と比較して9割程度となっている。

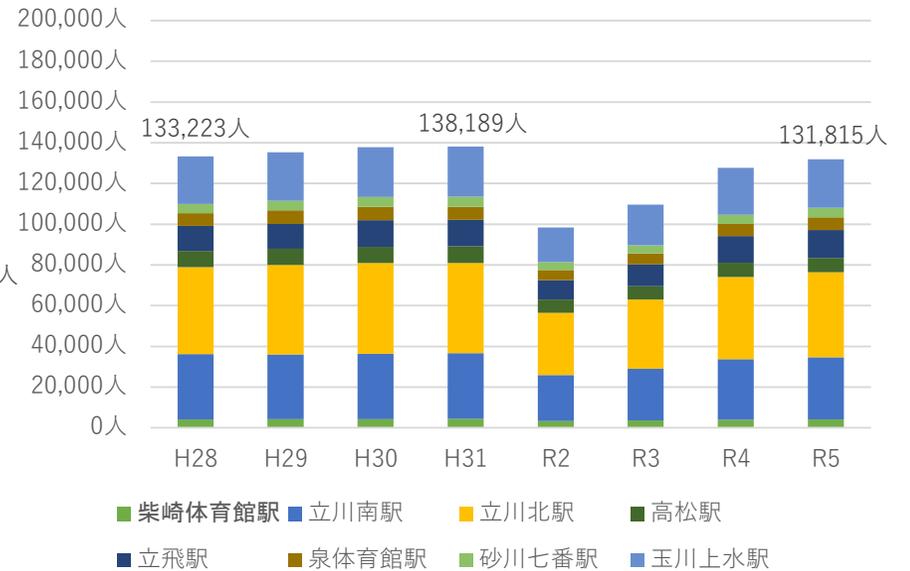
【JR東日本】乗車人員の推移



【西武鉄道】乗降客数の推移



【多摩都市モノレール】乗降客数の推移



※JR東日本のみ乗車人数、他は乗降客数
※各社とも一日平均人数

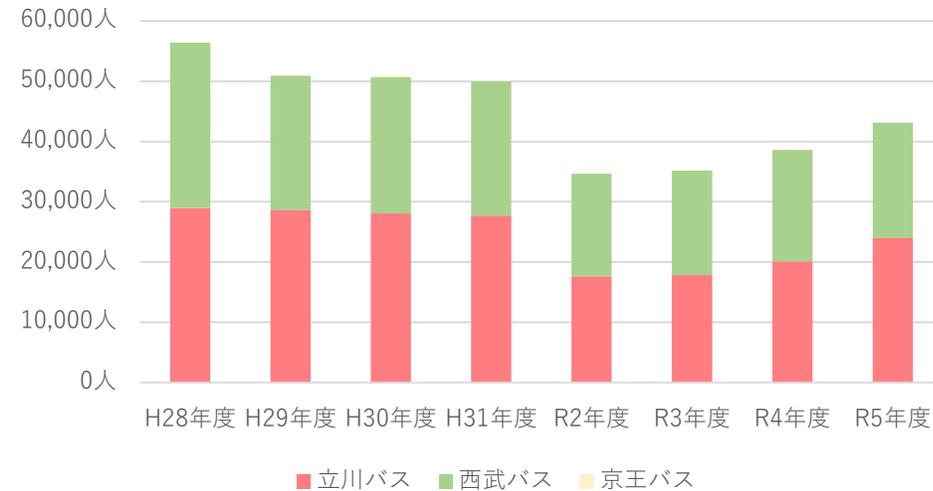
出典：統計年報（立川市）、各事業者HP

⑤ 路線バス

乗車人員の推移

- ・ 路線バスの乗車人数の推移は、平成31年度にかけて減少傾向。
- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、令和2年度に大きく減少。
- ・ 令和3年度以降は回復傾向にあるものの、令和5年度においても平成31年度の8割程度の数値に止まっている。

【運行事業者別】乗車人員の推移



	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
立川バス	28,943人	28,602人	28,054人	27,705人	17,637人	17,880人	20,129人	23,981人
西武バス	27,440人	22,343人	22,682人	22,261人	17,022人	17,319人	18,467人	19,149人
京王バス	111人	115人	114人	43人	56人	67人	71人	8人

※各社一日平均人数

出典：統計年報（立川市）
各事業者ヒアリング

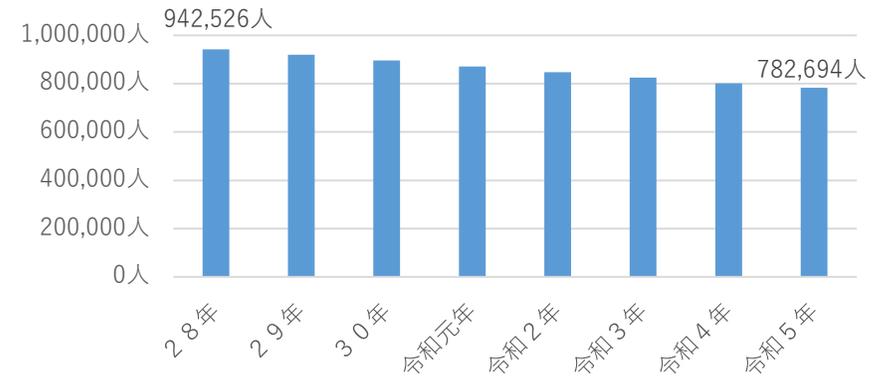
■路線バス事業者における運転手不足

- 大型二種免許保有者の数は令和5年にかけて減少傾向。
- 平成28年と令和5年を比較すると約17%減少。
- 大型二種免許の保有比率では、全体の約60%が60代以上となっている（50代以上は約84%）。

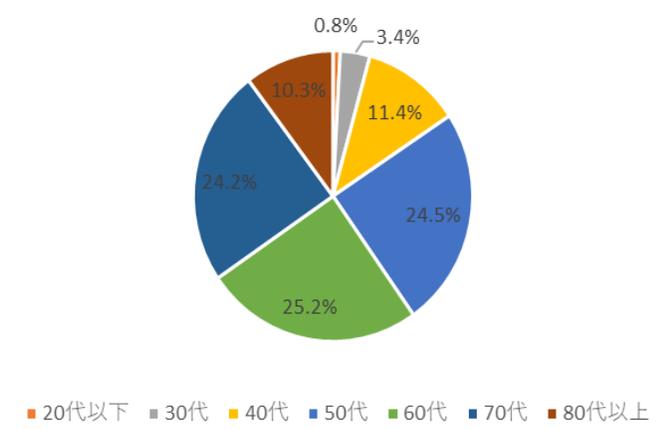
⇒改善基準告示も重なり、運転手不足が深刻化。
運転手の高齢化により、今後より一層厳しい状況が予想される。

※地域公共交通会議の場では、交通事業者から今後3年で240人が退職となる見込みである中、同様の人数を新規採用するのはかなり厳しいと考えており、将来的にはエリアの縮小なども視野に入れなければ交通事業者としての存続が難しいという認識を持っているとの話も。

大型二種免許保有者の推移（全国）



令和5年 大型二種免許年代別保有比率

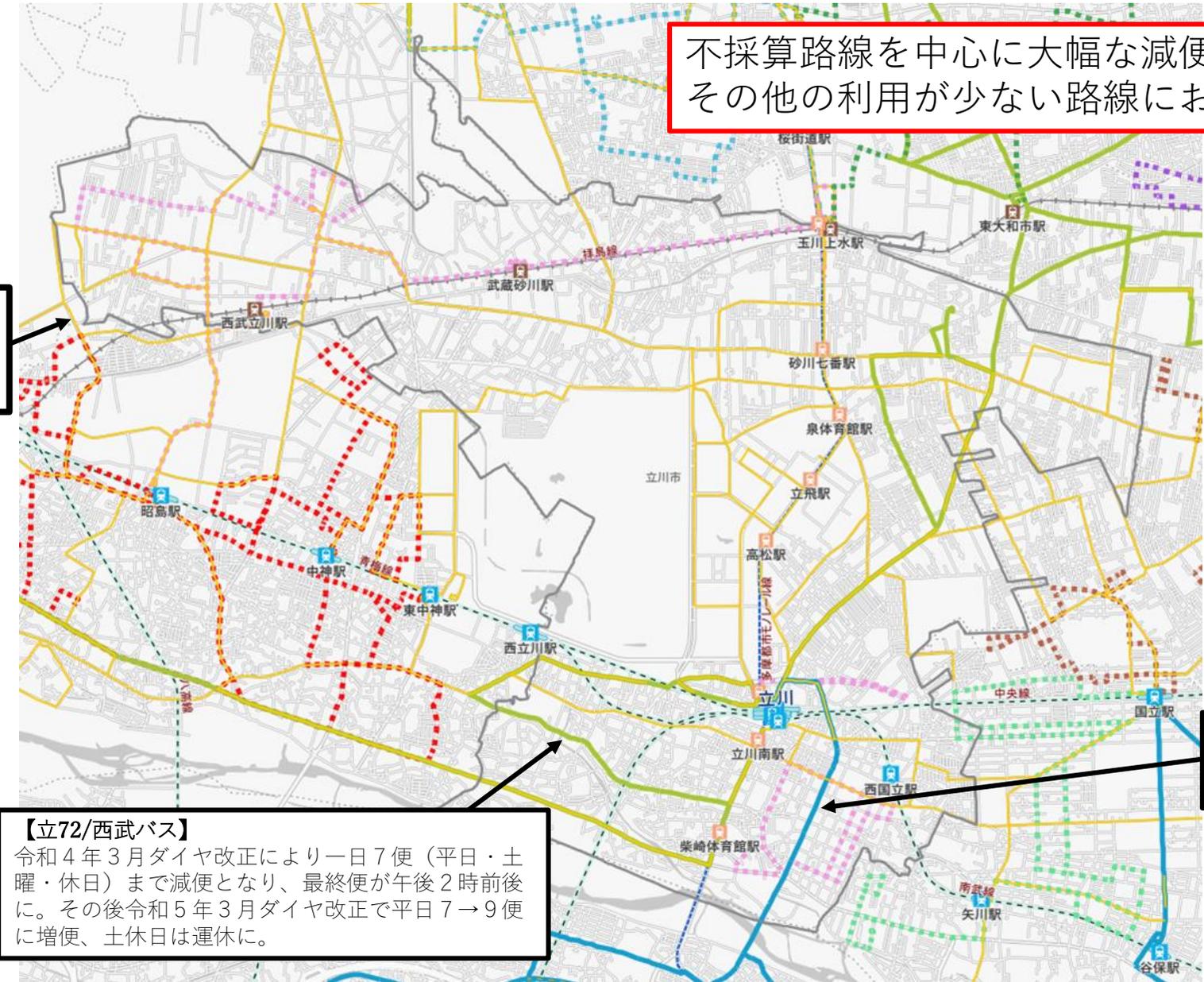


出典：運転免許統計令和5年版（警察庁）

■路線バスの減便

不採算路線を中心に大幅な減便（図参照）。
その他の利用が少ない路線においても減便傾向。

【堀向線/立川バス】
令和2年6月のダイヤ改正により、平日20便が6便まで減便。



【立72/西武バス】
令和4年3月ダイヤ改正により一日7便（平日・土曜・休日）まで減便となり、最終便が午後2時前後に。その後令和5年3月ダイヤ改正で平日7→9便に増便、土休日は運休に。

【立65・66/京王バス】
令和5年4月ダイヤ改正により、土曜1便のみの運行まで減便。

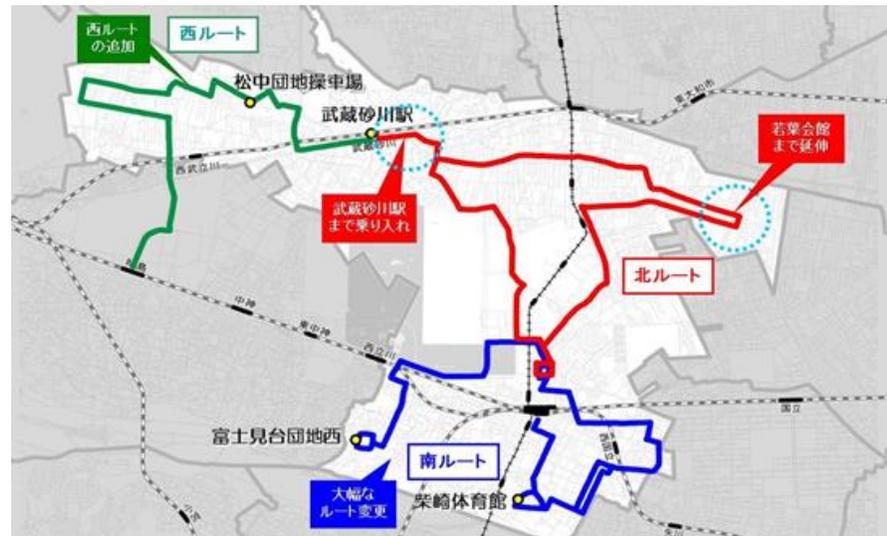
⑥くるりんバス

■運行経過

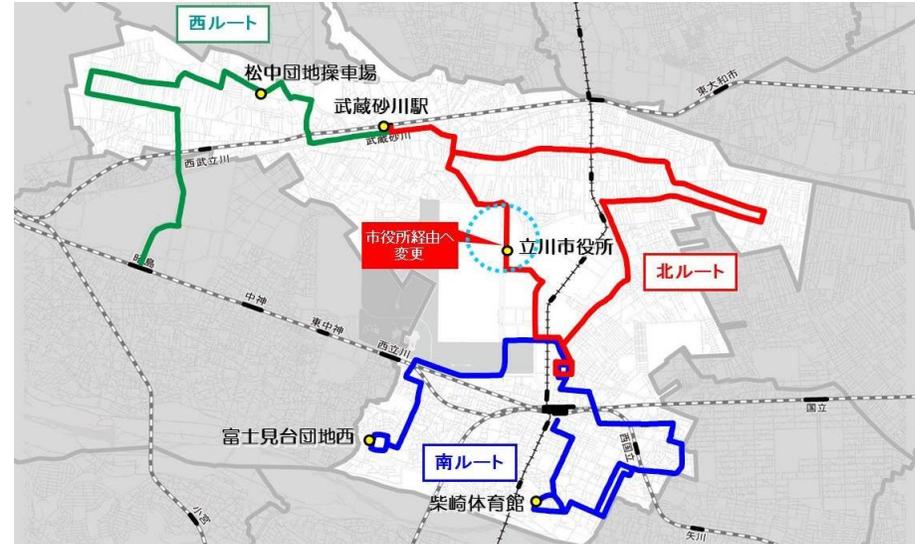
- 平成14年12月 運行開始
⇒北ルート、南ルートの2ルート
⇒運賃100円



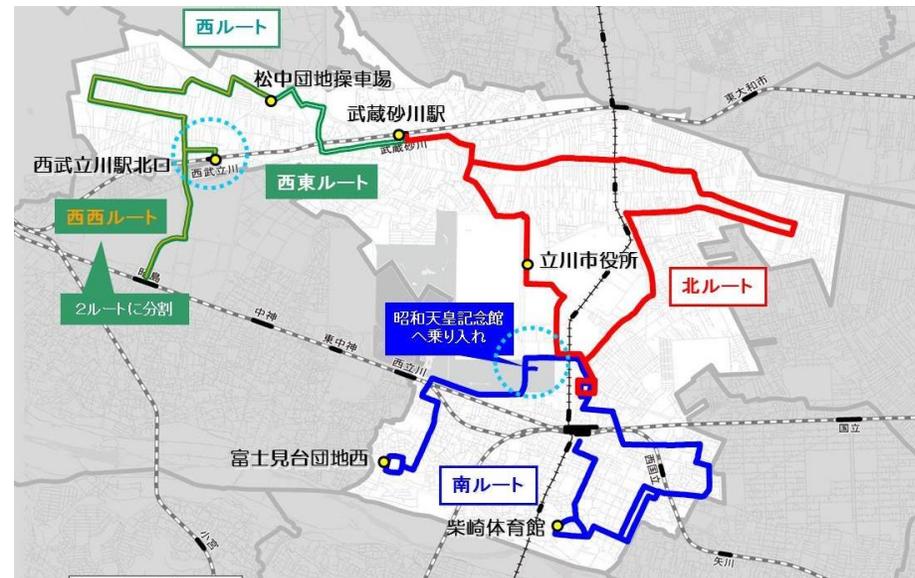
- 平成17年12月
⇒運行当初より要望のあった西砂地域において西ルートを新設
⇒北ルートでは、西武拝島線武蔵砂川駅へ乗り入れ開始および若葉会館までの延伸
⇒南ルートは、西ルート開設に伴いルート見直し



- 平成22年 5月
⇒ 市役所の移転に伴ってルート見直し

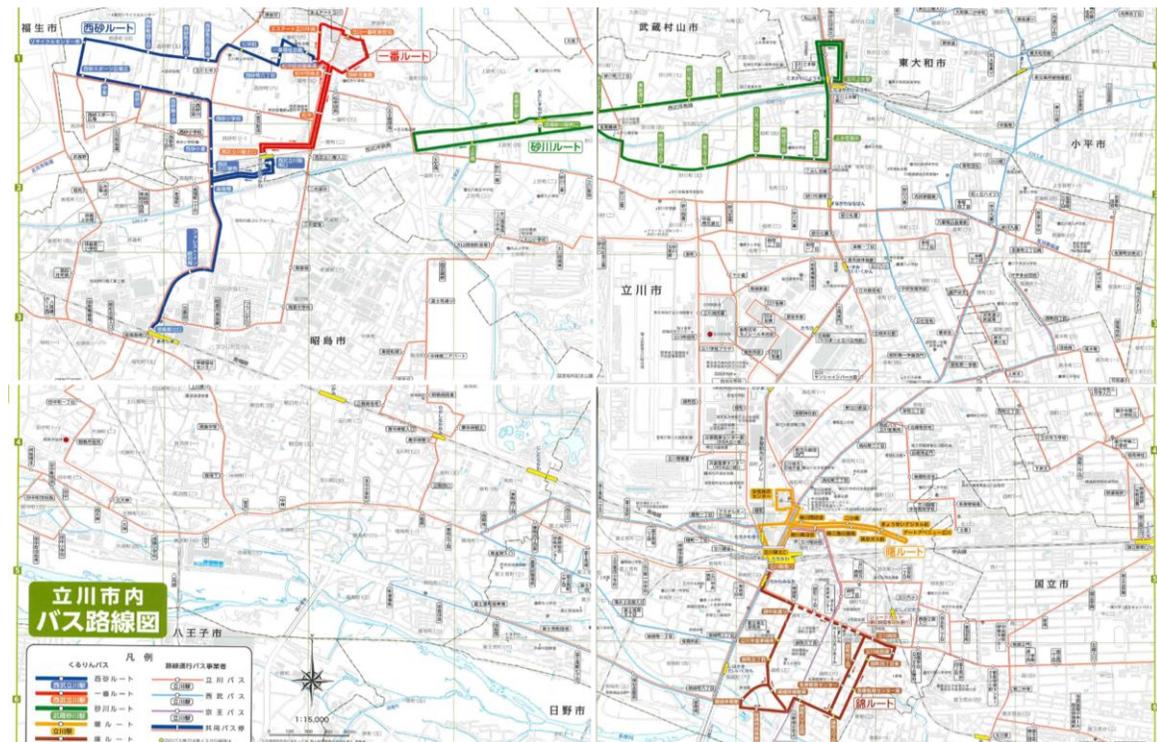


- 平成24年 7月
⇒ 西ルート 運行本数を増やすために2ルート（西西ルート、西東ルート）に分割
⇒ 南ルート 昭和天皇記念館に乗り入れ



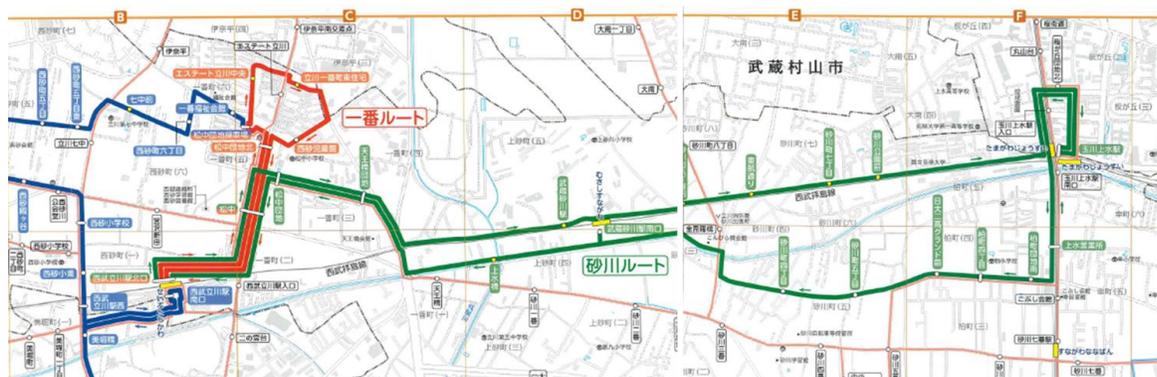
• 平成28年9月（右図）

- ⇒コミュニティバス再編計画で定めた「路線バスの補完」「交通不便地域の利便性向上」などのコンセプトをもとに5ルートに再編
- ⇒運賃を路線バスの初乗運賃に合わせ180円に変更



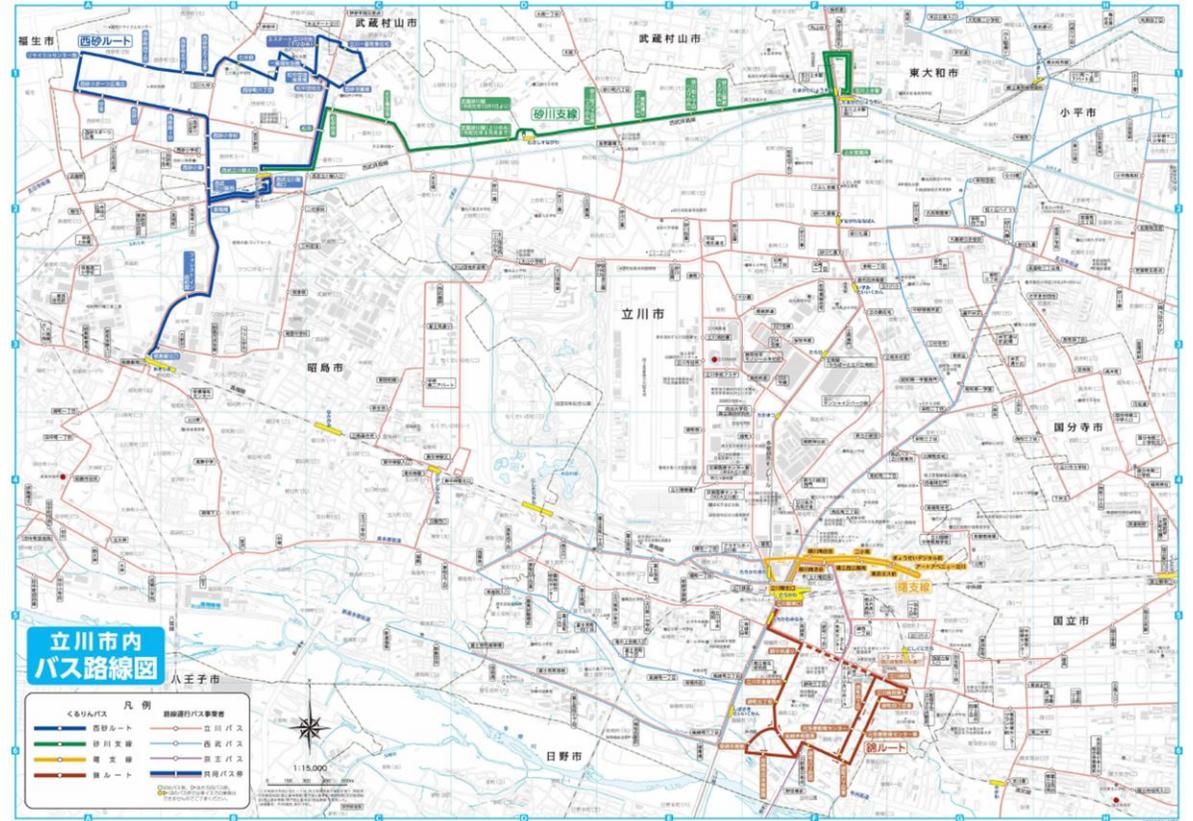
• 平成30年3月（左図）

- ⇒砂川ルート 経費削減を目的に、一番ルートの回送運行を使用した運行に変更し、西武立川駅に乗り入れ。



- 令和元年8月(右図)

- ⇒一番ルートを廃止し、西砂ルートと一体化
- ⇒砂川ルートを西砂ルートの回送運行による支線に位置づけ(武蔵砂川駅駅前広場への乗り入れ)
- ⇒曙ルートを錦ルートの回送運行による支線に位置づけ



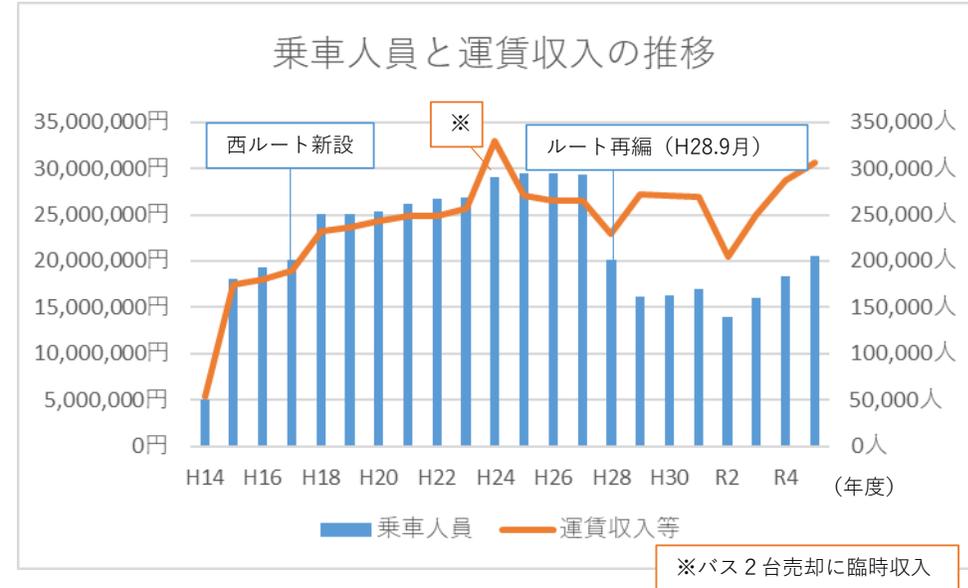
- 令和4年3月(左図)

- ⇒堀向線減便により、西砂地域住民から市議会に陳情が提出されたことを受け、短期的措置として西砂ルートの一部(平日上下3便)について西砂町二丁目経由で運行(左図赤枠内)。

■ 運行状況

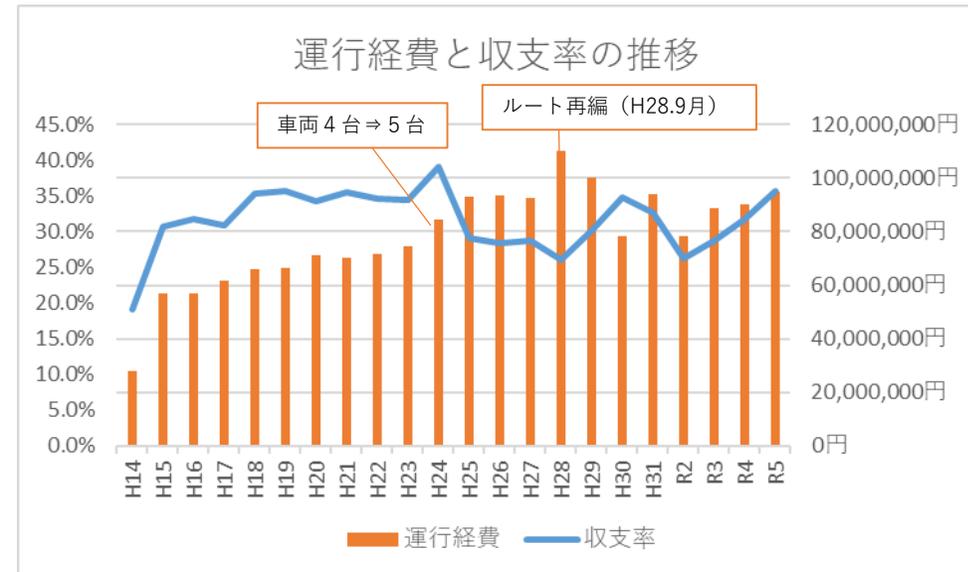
・ 乗車人員と運賃収入の推移

- ⇒平成28年度再編により乗車人員は約16万人に減少したものの、改善策等により平成31年度まで増加傾向。運賃が180円となったことにより運賃収入は再編前を上回る推移
- ⇒新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度は乗車人員、運賃収入ともに大きく落ち込む。
- ⇒令和3年度以降は増加傾向。令和5年度は平成28年度再編以降、乗車人員、運賃収入ともに最も高い数値となった。



・ 運行経費と収支率の推移

- ⇒車両5台運行になったことにより平成24年度以降運行経費が増加。平成28年度以降は再編等にかかる臨時的経費などにより凸凹はあるものの、燃料費高騰、人件費などにより増加傾向にある。
- ⇒平成25年度以降、収支率は低下。平成28年度再編後、増加傾向にあったものの、令和2年度に再び低下。令和3年度以降は増加し、令和5年度は平成28年度後で最も高い数値となり、再編計画の目標値である収支率40%に近付いた。



■ 地域公共交通会議での意見（抜粋）

- ・ P D C A サイクルについて、収支率30%という運行継続基準の見直しを含めた検討が必要。
- ・ 公共交通を取り巻く状況の大きく変化する中、交通不便地域の考え方を改めて議論すべき。
- ・ 今後は、バス、鉄道、その他の移動手段の組み合わせで交通不便を解消していくべき。くるりんバスにこだわることなく検討を。
- ・ 地域住民と行政が連携して検討を進めるべき。

■ くるりんバスに対する要望

- ・ 弁天通り経由立川駅行きのコミュニティバス新設に関する陳情【令和3年第1回定例会】
⇒かつて立川バスで運行していた「弁天通り経由立川駅行き」について、コミュニティバスでのルート新設を求める陳情
- ・ 西砂町の交通不便解消に関する陳情書【令和3年第2回定例会】
⇒立川バスの運行する堀向線が減便されたことを受け、堀向線の増便、高齢者や障害者等の買い物や通院の移動手段を確保など求める陳情
- ・ 高齢者の移動手段に関する請願【令和5年第4回定例会】
⇒京王バスの運行していた「立65・66系統」が休日1便のみの運行となったことを受けて、くるりんバスのルート新設や施設内乗り入れ等を求める請願

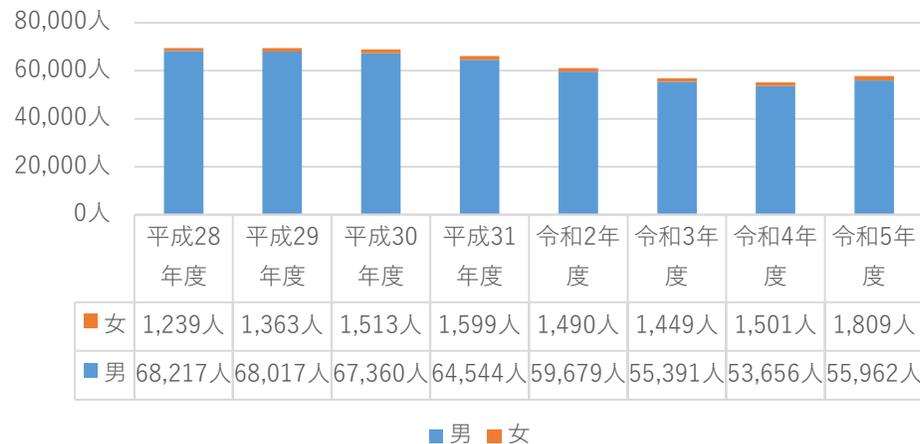
⑦ タクシー

市内では5つの法人タクシー事業者（新立川交通(株)、立川観光自動車(株)、大和自動車交通立川(株)、日本交通立川(株)、ヤマト交通(株)）のほか、個人タクシー事業者が営業している。

■乗務員数の推移（都内）

- 乗務員数は平成28年度から令和4年度にかけて14,000人以上減少。令和4年度から令和5年度にかけては若干増加している。
- 女性の乗務員数は、コロナ禍で一時期減少したものの、増加傾向。

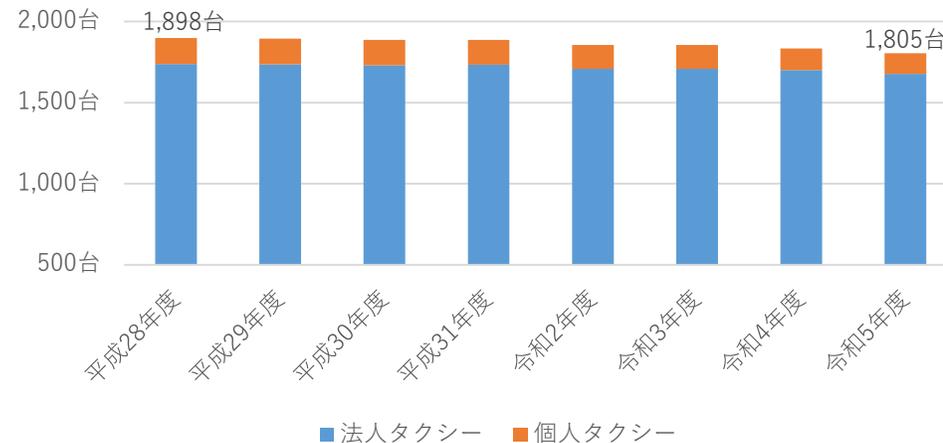
タクシー乗務員（運転者証交付数の推移）



■車両台数の推移（北多摩地区）

- 車両台数は平成28年度から令和5年度にかけて緩やかに減少している。

タクシー台数の推移（北多摩地区）



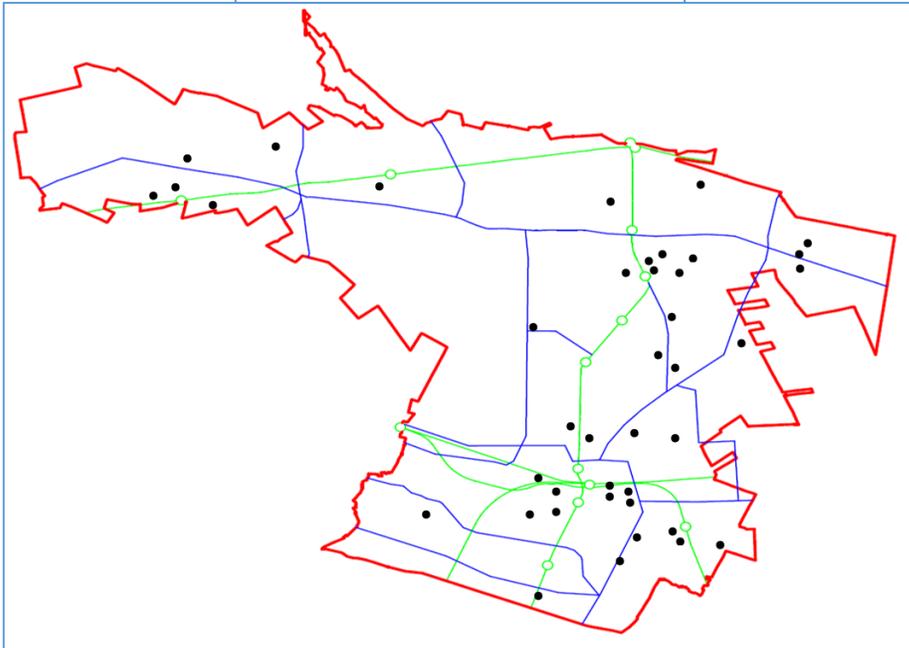
⑧その他交通手段

■シェアサイクル

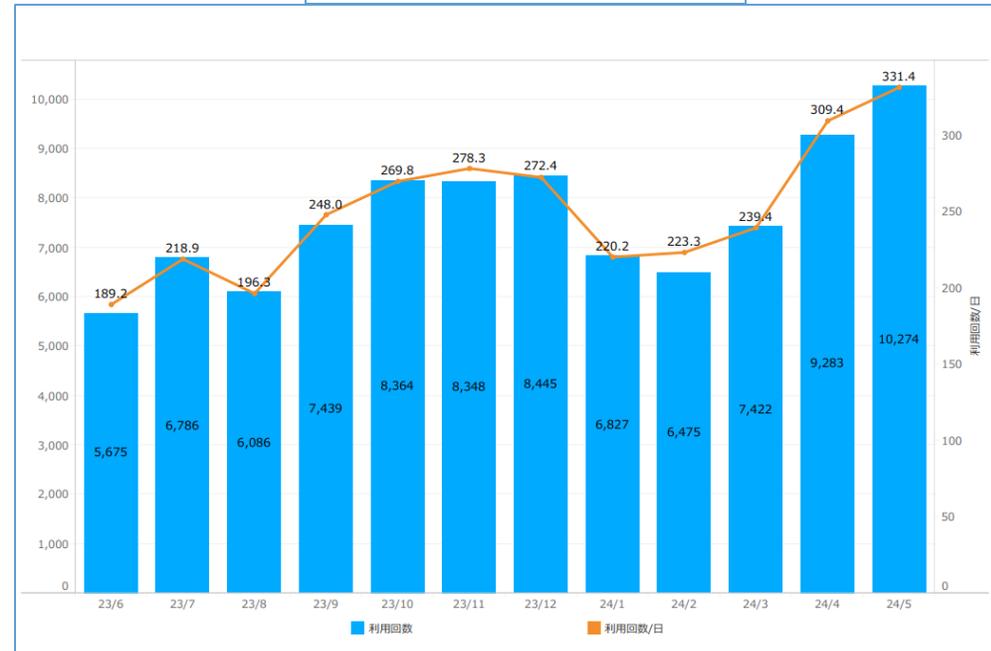
- ・ Openstreet株式会社 (HELLO CYCLING) と協定を締結し、令和4年4月1日から実証実験を開始 (令和7年3月31日まで)
- ・ 設置数：42ステーション、298ラック (令和6年6月1日現在)



ステーションの設置状況

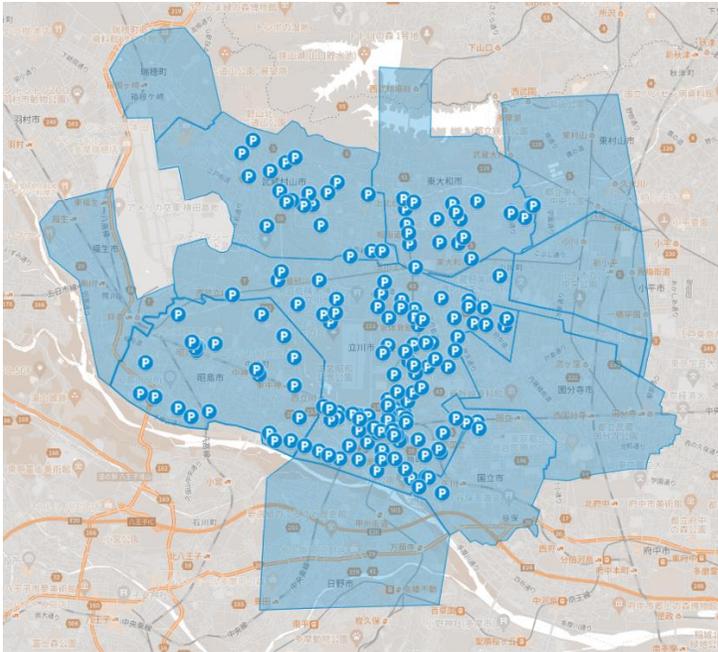


利用者数の推移



■ 電動キックボード

- ・ BRJ株式会社が電動キックボードのシェアリングサービス「BIRD」を実施
- ・ 設置状況は下図のとおり（令和6年7月時点）



総配備台数：約350台
**多摩エリアポート数：
約165**

- ・ 立川市：98
- ・ 東大和市：18
- ・ 昭島市：21
- ・ 武蔵村山市：17
- ・ 小平市：1
- ・ 国分寺市：1
- ・ 国立市：8

